

平成23年度事業報告書

社団法人瀬戸内海環境保全協会

今年度事業推進上の基本方針

「瀬戸内海環境保全協会」の設立趣意を踏まえつつ、平成22年度に実施した検討会での検討結果を受け、次の方針のもと事業を展開した。

「瀬戸内海の環境保全・創造」に関する活動拠点、瀬戸内海の各種対策のコーディネータとして、

(1) 瀬戸内海の環境活動、環境学習に関する指導者のネットワーク構築、教材等作成提供

(2) 瀬戸内海の栄養塩類や生物多様性等新たな課題に対する調査研究

(3) 瀬戸内海に関する各種情報、データの収集・発信

の中心的な役割を目指して事業を進めた。

また、事業実施にあたっては、瀬戸内海に関係する府県市、漁業団体、環境衛生団体の緊密な連携のもと、新たな水環境の考え方の一つである「(森・川・海の)流域管理」や「里海」をキーワードとしながら、環境省や瀬戸内海環境保全知事・市長会議、瀬戸内海研究会議との連携をさらに密にし、豊かで美しい瀬戸内海を後世に継承していくための事業展開を図った。

I 事業

1. 環境活動・環境学習等事業

(1) 瀬戸内海環境保全月間事業の展開

瀬戸内海の環境保全意識の高揚を図るため、次の事業を実施した。

① 平成23年度瀬戸内海環境保全月間（期間：23年6月1日～6月30日）ポスターの配布・掲示

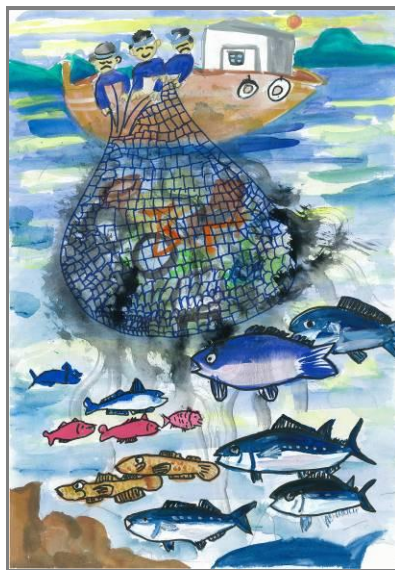
平成22年度に公募し、選定された最優秀作品を平成23年度瀬戸内海環境保全月間ポスターとして作成、関係機関に配布し、瀬戸内海環境保全月間に広く掲示した。

・ 配布枚数 5,000枚

平成23年度瀬戸内海環境保全月間ポスターの優秀作品



最優秀作品
岩田 依里香
(岐阜県瑞穂市 大学2年生)



優秀賞 (子供部門)
宮武 香帆
(香川県高松市 小学校6年生)



優秀賞 (一般部門)
中村 天美
(香川県木田郡 高校2年生)

②瀬戸内海環境保全月間ポスター原画展の実施

第41回瀬戸内海環境保全知事・市長会議総会に合わせて、協会が保有している瀬戸内海環境保全月間ポスター入選作品の原画を展示した。

日時：平成23年7月27日

場所：ホテルグランビア広島（広島市）

展示作品数：平成14年度～23年度 最優秀・優秀作品 30点



ポスター原画展の会場



湯崎広島県知事へのポスターの説明

③平成24年度瀬戸内海環境保全月間ポスターの募集・選定

平成24年度瀬戸内海環境保全月間に向けて、環境省、瀬戸内海環境保全知事・市長会議と連携してポスターの原画を募集し、入選作品を選定した。

- ・募集期間：平成23年7月12日～11月30日
- ・ポスター選定委員会の開催：平成24年2月6日
- ・応募数 子供部門：144件、一般部門：48件 総数：192件
- ・応募都府県：瀬戸内海（広島県など11府県）、瀬戸内海以外（9都県）

(2)「里海づくり」支援事業の展開

地域住民等に対する瀬戸内海の環境保全意識の啓発、理解及び活動参加の推進を図るため、ほぼ全ての会員府県市が実施する人と自然が共生する「里海づくり」に係る環境学習事業や環境ボランティア人材育成事業に対し、水生生物調査法の冊子、瀬戸内圏の干潟生物ハンドブックなどの資材を提供し支援を行った。

支援府県市 26府県市

支援対象事業 ①自然観察会、体験的学習事業

②環境ボランティアの人材育成事業



堺市「堺の環境体験ツアー」



徳島県「水生生物調査」

(3) 環境保全事業への支援

浜辺の清掃や環境美化等、各種環境保全・創造活動事業に取り組んでいる環境衛生団体や漁業団体、15団体に対し、その活動費用の一部を助成した。

(4) 環境保全研修の実施

① 瀬戸内海環境保全トレーニングプログラム研修の実施

団塊の世代の退職に伴い、環境技術職の世代交代が進むなか、新たに水環境保全業務に従事する職員を対象に、瀬戸内法や排水処理技術、瀬戸内海の新たな取り組みについて、研修を行った。

- ・ 日時：平成23年9月21日～22日

- ・ 場所：イーグレひめじ 姫路市国際交流センター

- ・ 講義：瀬戸内海の環境保全の歩みと再生方策

講師 広島大学名誉教授 松田 治

瀬戸内海の環境保全の動向 - 瀬戸内海環境保全特別措置法を中心として -

講師 環境省閉鎖性海域対策室室長補佐 橋本 浩一

栄養塩類が閉鎖性海域の水環境に与える影響

- 富栄養化海域に起きる貧栄養化現象 -

講師 京都大学大学院農学研究科教授 藤原 建紀

水質立ち入り検査方法と排水処理技術

講師 (財)国際エメックスセンター 梅本 諭

- ・ 現地研修、NPO等との意見交換・情報交換

新舞子海岸の観光事業と生物観察について

講師 兵庫県西播磨県民局 主査 廣利 靖弘

新舞子海岸の歴史

講師 播磨灘を守る会 代表 青木 敬介

- ・ 班別討議及び全体討議

- ・ 参加人数：30名（山口県、松山市等10府県15市3団体、聴講者3名を含む）



基調講義 広島大学名誉教授 松田治



現地研修：新舞子海岸での生物観察

② 瀬戸内海の環境保全に関する団体合同研修会の開催

当協会設立の原動力の一つである環境衛生団体との連携を継続・維持していくため、同団体の合同研修会を共同で開催した。

- ・主催：瀬戸内海環境保全地区組織会議、（財）広島県環境保健協会
（社）瀬戸内海環境保全協会
- ・日時：平成23年11月30日
- ・場所：（財）広島市未来都市創造財団 アステールプラザ（広島市）
- ・講演：「瀬戸内海西部に位置する中津干潟の環境保全と市民活動」
講師 NPO法人 水辺に遊ぶ会 理事長 足利 由紀子
- ・体験交流・意見交流：各府県市連合会の実践活動報告
 - 1) 御調川（みつぎがわ）と瀬戸内海の命を救うために
広島県 くい環境会議
 - 2) 「クリーン光大作戦」の取り組み
山口県 光市快適環境づくり推進協議会
 - 3) 全県共通事業「広島発・瀬戸内海美化大作戦」について
広島県 （財）広島県環境保健協会
- ・合同研修会のまとめ、ふりかえり
- ・参加人数：62名



近光 章議長（瀬戸内海環境保全地区組織会議）挨拶



講演：水辺に遊ぶ会 理事長 足利 由紀子

③瀬戸内海の環境保全に関する賛助会員等研修会の開催

当協会の賛助会員であり、ともに瀬戸内海の環境保全に取り組んでいる企業間のネットワークづくりの場として、研修会を実施した。

研修内容は、賛助会員へのアンケート結果を踏まえ、要望が多かったテーマである最新鋭工場の見学及び瀬戸内海の水環境等の現状と課題とした。

1) 第1回研修会（最新鋭工場の見学）

日時：平成23年9月7日

講義・見学：パナソニックプラズマディスプレイ(株)尼崎工場

工場における環境への取り組み内容とプラズマ工場、排水処理設備の見学
尼崎21世紀の森づくり構想（兵庫県阪神南県民局尼崎港管理事務所）

森づくり、スポーツの森施設の運営等についての講義と見学

参加人数：32名（自治体より4県7市参加）

2) 第2回研修会（瀬戸内海の水環境の今後の在り方について）

日時：平成24年2月7日 13:00～17:00

場所：パレス神戸（神戸市）

講義：

- ・基調講演：瀬戸内海における水環境の変遷と今後の方向性について
講師：放送大学 教授 岡田光正（環境省中央環境審議会瀬戸内海部会長）
- ・講演：「瀬戸内海の水環境と生態系－貧栄養化再考－」
講師：広島大学大学院生物圏科学研究科 教授 山本民次
- ・講演：「瀬戸内海の水産業の現状について」
講師：水産庁瀬戸内海漁業調整事務所 指導課長 小林一弘
- ・講演：「瀬戸内海の水環境行政の今後について」
講師：環境省水・大気環境局水環境課閉鎖性海域対策室 室長 富坂隆史
- ・パネル討論

参加人数：90 名（自治体より 6 県 5 市参加）



第 1 回研修会
(パナソニックプラズマディスプレイ尼崎工場)



第 2 回研修会
(瀬戸内海の水環境の今後の在り方について)

(5) 環境保全事業への参加・協力

①環境イベントへの参加・協力

他団体が主催する環境イベントにおいてパネルの展示、資料配布等を行い、瀬戸内海の環境保全の普及・広報を行った。

- ・第五管区海上保安本部が呼びかけ実施している大阪湾クリーン作戦（期間：23 年 6 月 1 日 ～ 6 月 30 日）に協力し、大阪湾クリーン作戦のポスターを環境月間ポスターと共に正会員、賛助会員へ配布
- ・（独）水産総合研究センター瀬戸内海区水産研究所が主催した、第 4 回瀬戸内海水産フォーラム（平成23年10月15日、広島市アステールプラザ）に講師を派遣

②環境NGO・NPOとの連携・支援

瀬戸内海の環境保全等に取り組む環境NGO・NPOが実施するイベント等に協力するなど連携・支援を行った。

- ・第 3 回里海創生シンポジウム「瀬戸内海の未来を考えるシンポジウム（平成23年11月26日、よみうり神戸ホール、主催：NPO法人環境創生研究フォーラム）」の後援

(6) K J B瀬戸内基金の管理・運営

瀬戸内海的环境保全等に取り組む環境NGO・NPOを支援するため、フィリップ モリス ジャパン株式会社が提唱する「keep Japan beautiful～日本をエコひいきしよう～」の一環として、瀬戸内海地域における環境美化・保全活動に取り組む市民団体の活動や事業の助成・支援を行うため設立した「K J B (keep Japan beautiful) 瀬戸内基金」の管理・運営業務を行った。

23年度K J B瀬戸内基金助成

応募総数：60団体

採択総数：23団体（和歌山県など8府県）

助成総額：3,788,000円

主な採択活動：海域及び河川の美化活動

また、平成24年度の環境美化・保全活動に対する助成選考委員会（平成24年3月22日）を開催し、助成団体の選考を行った。

(7) 瀬戸内海再生に向けた取組みの推進

瀬戸内海の生物多様性の確保、水産資源の回復、美しい自然とふれあう機会の提供等の豊かで美しい瀬戸内海を取り戻すための施策が総合的、計画的に推進されるよう、瀬戸内海環境保全知事・市長会議等と連携して、種々の取組みを行った。

(8) 瀬戸内海スナメリ発見情報プロジェクト実践事業の展開

沿岸住民の瀬戸内海に対する理解や関心を深め、自主的な取り組みを推進するための契機となるよう、平成11年度から実施しているスナメリ発見情報プロジェクトを引き続き展開するとともに、スナメリのマスコットイラスト「ほのぼのん」を活用したマグネットを作成し、広島市でのポスター原画展、神戸市でのひょうごエコフェスティバルの会場において配布し、瀬戸内海的环境保全啓発活動を行った。



「ほのぼのん」マグネット

2. 情報共有・発信事業

瀬戸内海的环境保全の現状や、瀬戸内海のあり方、行政施策に関する情報を収集し、今後の施策や事業の連携、協調を図るため、府県市、漁業団体、環境衛生団体等の会員をはじめ、関係する市民等に広く情報を発信し、共有した。

(1) 総合誌「瀬戸内海」の発行・配布

瀬戸内海の自然・社会・人文科学の総合誌「瀬戸内海」を発行・配布するとともに協会ホームページに掲載した。

- ・発行回数：年2回

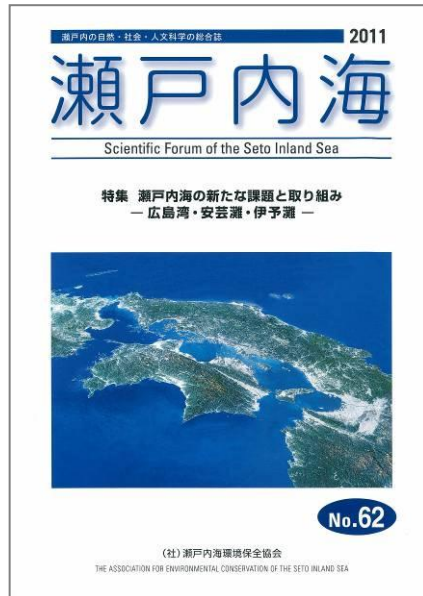
第62号：平成23年9月発行 1,000部、CD-ROM

特集 瀬戸内海の新たな課題と取り組み ―広島湾・安芸灘・伊予灘―

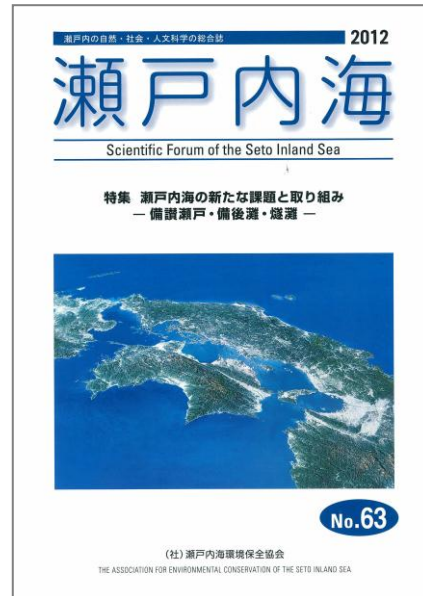
第63号：平成24年3月発行 1,000部、CD-ROM

特集 瀬戸内海の新たな課題と取り組み ―備讃瀬戸・備後灘・燧灘―

- ・無償配布：会員団体（冊子及びCD-ROM）
- ・有償配布：年間購読者等（冊子のみ）



「瀬戸内海」第62号



「瀬戸内海」第63号

(2) 資料集「瀬戸内海の環境保全―平成23年度版―」の発行・配布

瀬戸内海に関する各種資料・データを取りまとめ、資料集「瀬戸内海の環境保全―平成23年度版―」として、600部を発行・配布した。

- ・無償配布：会員団体（冊子及びCD-ROM）
- ・有償配布：会員以外（冊子のみ）

(3) 協会ホームページの充実

瀬戸内海の環境保全に関する環境学習情報等を広く一般の方も容易に入手できるとともに、環境保全に取り組むNPOのネットワーク化にも役立つよう、情報内容の充実など協会ホームページの見直しを行った。

(4) メールマガジンによる情報の発信

会員府県市、漁業団体、環境衛生団体及び協会が有するトピックスを収集し、正会員相互の情報共有や施策立案等に資するよう、正会員に向けたメルマガによる情報発信を行った。

- ・平成23年7月15日の第1号から平成24年3月16日の第9号まで毎月15日に発行

(5) 青少年による環境保全の取り組みへの情報収集・提供

将来の瀬戸内海を担う青少年の活動を促進するため、青少年が実施している環境保全活

動に関する情報を収集した。

- ・兵庫県教育委員会が進めている瀬戸内海環境再生における高校生の連携を目指した活動に参加し関係者と情報交換

(大阪湾の環境を考える兵庫県高校生フォーラム、平成23年11月20日開催、7校発表)

3. 調査・研究事業

(1) 海域の物質循環健全化計画策定事業－海域ヘルシープラン策定モデル事業－（環境省）

窒素、リン等の栄養塩は海域の動植物、プランクトン等にとって必要不可欠なものであるが、必要量を上回る流入や海域をめぐる社会経済情勢、自然条件の変化等による生物相の変化等によって海中の栄養塩類のバランスが損なわれ、赤潮や貧酸素水塊の発生、海苔の色落ち等の水産被害の発生が見られる海域が存在している。

海域における適切な栄養塩類の状態を実現し、生物多様性に富んだ豊かで健全な海域を構築するためには、海陸一体となった栄養塩の円滑な循環を達成するための管理方策を明らかにし、多様な主体の参画による総合的な取組を推進する必要がある。

そのため、地域の実情に応じた具体的な行動計画(栄養塩類管理方策)の確立を目指し、環境省が実施する本事業により調査検討を行った。

当事業は、平成22年度に開始され、2年目となる平成23年度は次の検討を実施した。

① 地域の栄養塩循環状況と滞りの要因の解析

ヒアリングや文献による情報収集、シミュレーションモデル計算結果より解析を行った。

② 物質循環状況の解明調査

平成23年7月12日と9月9日に現地調査を実施し、結果の解析を行った。

③ 栄養塩類循環バランス向上対策の抽出

現地調査結果や情報収集結果を踏まえ、シミュレーションを実施する対策と実証試験を実施する対策を抽出した。

④ 栄養塩類循環バランス向上対策の評価

シミュレーションモデル計算結果について効果の検証と有効性の評価を行った。

⑤ 対策効果の実証試験

加古川下流浄化センターの窒素排出量増加運転について、平成23年11月24日と平成24年1月10日に現地調査を行った。

⑥ 地域懇談会

当事業に関する地元関係団体の意見を聴取するため、平成24年2月1日に地域懇談会を地元関係団体、検討委員会委員にて開催した。

⑦ 検討委員会の設置・運営

平成23年9月9日、11月7日、平成24年2月22日に地域検討委員会を開催し、資料の説明と結果の整理を行った。

4. その他関連事業

(1) 国に対する提案

単独の府県だけでは取り組めない瀬戸内海の広域的な課題の解決に向けた調査・研究に取り組むため、国に提案した。

(提案事項)

- 1) 瀬戸内海環境保全・再生のための普及活動、環境教育・環境学習事業及び参加型環境保全活動事業の推進
- 2) 瀬戸内海の環境データの収集とデータベース機能の充実
(特に生物、藻場、干潟等の自然環境情報)
- 3) 瀬戸内海の沿岸域での良好な環境の保全、失われた環境の修復・創造に関する調査研究
- 4) 生物多様性の確保及び水産資源の回復、美しい自然とふれあう機会の提供等瀬戸内海を里海として再生するための調査研究
- 5) 瀬戸内海の汚濁メカニズムの解明と栄養塩類の適正な管理等を通じた海域の物質循環健全化に関する調査研究
- 6) 瀬戸内海の自然環境及び水環境保全並びに浮遊・漂着・海底ごみ等に関する調査研究
- 7) 瀬戸内海における有害化学物質等による環境影響に関する調査研究
- 8) 瀬戸内海における外海からの環境影響に関する調査研究
- 9) 気候変動（海水温上昇）に伴う漁獲の変化及び水産業に与える影響調査
- 10) 外来種侵入に伴い、生物多様性、特に水産業（漁獲量）へ及ぼす影響調査
- 11) 瀬戸内海の自然景観と文化的景観の保全と再生に向けた取り組み（自然、文化、歴史等の既存の情報収集とその広報活動を含む）
- 12) 地域で活動している NPO 団体との連携による地域づくり活動の実施体制の構築（指導者やボランティアの育成）
- 13) 瀬戸内海研究会議の調査研究及び教育活動

- ・ 提案日：平成23年6月15日
- ・ 提案先：民主党兵庫県総支部を通じて、民主党本部へ提案
- ・ 提案内容の説明会：平成23年10月1日
- ・ 協会の提案に対し、民主党を経由して環境省、国土交通省、農林水産省より回答

(2) 瀬戸内海環境保全知事・市長会議との協調

瀬戸内海環境保全知事・市長会議と連携を密にし、ポスター原画展や環境保全月間ポスターの公募など協調して事業を行った。

(3) 賛助会員の加入促進

賛助会員研修会に参加した事業所に対して、協会のパンフレットと賛助会員の申し込みを添え、加入促進を行った。

(4) 瀬戸内海の環境保全に係る現地ヒアリング支援業務（環境省）

平成23年7月20日に環境大臣より中央環境審議会瀬戸内海部会に諮問された「瀬戸内海における今後の目指すべき将来像と環境保全・再生の在り方」に関しては、同部会企画専門委員会で調査・審議がなされる中で、本諮問に関する関係機関や一般市民からの意見を

幅広く聞くため、現地ヒアリングが開催されることとなり、現地ヒアリング開催について支援を行った。

- ・瀬戸内海西部会場：平成24年2月13日、西日本総合展示場（北九州市）
- ・瀬戸内海中部会場：平成24年2月14日、高松シンボルタワー（高松市）
- ・瀬戸内海東部会場：平成24年2月22日、新梅田研修センター（大阪市）

5. 瀬戸内海研究会議に対する支援・協力

瀬戸内海研究会議の事務局を担うとともに、研究会議が行う事業の運営推進について支援・協力を行った。研究会議が行った主な事業は次のとおりである。

(1) 「瀬戸内海研究フォーラムin大分」の開催

第19回目となる「瀬戸内海研究フォーラムin大分」を開催し、水辺環境の保全や創造・利用を積極的に考え、行動する人々の報告や各地からの多様な参加者の熱心な発表、討論や交流が行われた。

- ・日時：平成23年8月18～19日
- ・場所：コンパルホール（大分市）
- ・テーマ：「西瀬戸の今～海をそだて、海にまなび、海でくらす人々～」
- ・参加者数：延べ約300名



瀬戸内海研究フォーラムin大分



ポスター展示会場

(2) 瀬戸内海研究会議ワークショップの開催

第14回ワークショップは、「多島海」としての視点で、瀬戸内の島々の活性策についての発表、討論など、広く瀬戸内海の環境保全・再生に資することを目的として行った。

- ・日時：平成23年11月18日 13:00～17:00
- ・場所：ラッセホール（神戸市）
- ・テーマ：「瀬戸内の島々の再興への新たな動き」
- ・参加者数：72名

(3) 瀬戸内海の環境保全・創造に係る研究助成事業

平成23年度から3か年計画で、知事・市長会議のニーズに即した研究成果のとりまとめ、施策提言を行うため、初年度は過去の研究資料の整理・評価を行い、新たな調査研究について公募を行った。

- ・委託者：瀬戸内海環境保全知事・市長会議
- ・テーマ：「瀬戸内海を豊かな里海とするための栄養塩・物質循環に関する研究」

(4) 大阪湾圏域の海域環境再生・創造に関する研究助成事業の事務委託

平成23年度大阪湾圏域の海域環境再生・創造に関する研究助成の募集を行い、選考委員会（企画委員会）による選考の結果、9テーマ（10名）を採択した。また、平成22年度の助成事業の成果発表会を8月1日、神戸市勤労会館にて行った。

・委託者：大阪湾広域臨海環境整備センター

6. 国際的な活動への協力

（財）国際エメックスセンターが、平成23年8月28日～31日に米国メリーランド州ボルチモア市で開催した第9回世界閉鎖性海域環境保全会議（EMECS9）に対する協力・支援を行った。



EMECS9開会式



井戸理事長挨拶

Ⅱ 一般事項

1. 会議等の開催

(1) 総会

① 通常総会（平成23年5月25日 ラッセホール）

- ・平成22年度事業報告及び収支決算
- ・平成23年度会費
- ・平成23年度事業計画及び収支予算
- ・国に対する提案
- ・役員の改選

② 臨時総会（平成24年3月22日 兵庫県民会館）

- ・公益社団法人への移行申請のための新定款

(2) 理事会

① 第90回理事会（平成23年5月25日 ラッセホール）

- ・専門委員会委員の委嘱
- ・通常総会付議事項

② 第91回理事会（平成24年3月12日 ラッセホール）

- ・平成23年度事業計画の変更
- ・平成23年度収支補正予算
- ・職員給与規則の一部改正

- ・ 専門委員会設置要綱の改正
- ・ 瀬戸内オリーブ基金による緑化事業実施要領
- ・ 公益社団法人への移行申請のための新定款（案）
- ・ 顧問の委嘱
- ・ 平成24年度事業計画案及び収支予算案

(3) 専門委員会等

① 企画委員会

協会の新規事業推進のための方策検討等を行った。

第90回企画委員会（平成23年7月28日 兵庫県民会館）

- ・ 平成23年度事業実施状況
- ・ 瀬戸内海環境保全協会のあり方検討会の検討結果
- ・ 「瀬戸内・海文化」の進め方

第91回企画委員会（平成24年1月30日 兵庫県民会館）

- ・ 平成23年度事業実施状況
- ・ 平成24年度事業計画案及び収支予算案
- ・ 公益社団法人への移行申請のための新定款（案）
- ・ 「瀬戸内・海文化」の進め方

② 編集委員会

協会が発行する「瀬戸内海」の特集テーマや掲載内容及び執筆者等の検討を行った。

第1回編集委員会（平成23年6月14日 兵庫県民会館）

- ・ 「瀬戸内海」62号の原稿収集について

第2回編集委員会（平成23年11月15日 兵庫県民会館）

- ・ 「瀬戸内海」63号の原稿収集について

③ 賛助会員事業部会

協会活動に対する賛助会員の積極的な参画と賛助会員に係る事業の検討・企画を行った。

第1回賛助会員事業部会（平成23年6月16日 神戸市勤労会館）

- ・ 賛助会員現地研修会等について

第2回賛助会員事業部会（平成23年11月25日 神戸市勤労会館）

- ・ 賛助会員研修会及び平成24年度現地研修会について

事業部会委員：関西電力(株)、川崎重工業(株)、(株)神戸製鋼所、マツダ(株)、四国電力(株)
いであ(株)、(株)大塚製薬工場、山口県瀬戸内海環境保全協会

(4) 参事・事務局長並びに担当課長会議

会員に対する協会事業の理解と周知を図るとともに、事業活性化のため、会員相互の情報交換等を行った。

（平成24年3月22日 兵庫県民会館）

- ・ 平成23年度事業実施状況及び収支補正予算
- ・ 平成24年度事業計画案及び収支予算案

・平成24年度国への提案事項案

2. 専門委員の委嘱

企画委員、編集委員を委嘱した。

(1) 企画委員（13名）

谷口 靖彦	大阪府環境農林水産部環境管理室環境保全課長
森川 格	兵庫県農政環境部環境管理局水大気課長
日原 康生	広島県環境部環境県民局環境保全課長
森 敏樹	香川県環境森林部環境管理課長
田島 義久	大分県生活環境部環境保全課長
小西 治樹	大阪市環境局環境管理部土壌水質担当課長
天野 孝司	神戸市環境局環境創造部主幹（水・土壌環境担当課長）
加藤 正樹	西宮市環境局環境緑化部環境監視グループ長
桑原 文子	下関市環境部環境政策課長
高木 繁行	山口県漁業協同組合総務指導部次長
宮本 寿	愛媛県漁業協同組合連合会専務理事
内田 靖人	（社）大阪エイフボランティアネットワーク事務局長
上田 康二	（財）広島県環境保健協会地域活動支援センター長

(2) 編集委員（10名）

小川 喜弘	関西電力（株）環境室環境技術グループチーフマネジャー
櫻井 正昭	（一財）自然公園財団専務理事
住田 典子	（財）広島県環境保健協会地域支援課長
反田 實	兵庫県農林水産技術総合センター水産技術センター所長
泥 俊和	（株）神戸製鋼所本社環境防災部次長
西田 正憲	奈良県立大学地域創造学部教授
橋本 浩一	環境省水・大気環境局水環境課閉鎖性海域対策室室長補佐
森 敏樹	香川県環境森林部環境管理課長
森川 格	兵庫県農政環境部環境管理局水大気課長
鷲尾 圭司	（独）水産大学校理事長